

2026 年 8 月 20 日

立教大学国際学術研究交流制度
2026 年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	外国語教育研究センター・教授
氏名	森平 崇文
派遣機関名	School of Liberal Arts, Renmin University of China 所在国：中国
研究テーマ	断交時期の日中演劇交流について
派遣期間	2026 年 7 月 22 日～2026 年 8 月 7 日（17 日間）
研究経費	376,570 円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2026 年 7 月 22 日	離日
2026 年 7 月 23 日 ～8 月 5 日	国家図書館にて資料調査
2026 年 7 月 23 日	北京外国語大学日本語学院の秦剛教授を訪問、今後の学術交流と研究動向につき意見交換
2026 年 7 月 31 日	田漢基金会の欧陽維秘書長と会見、今後の学術交流と研究動向につき意見交換
2026 年 8 月 1 日	田漢基金会共催の「グローバルな視点から見た中国近現代舞台芸術（全球視野下的中國現當代表演藝術）」ワークショップにオンライン参加
2026 年 8 月 2 日	中国人民大学文学院の江棘教授と会見、今後の学術交流と研究動向につき意見交換
2026 年 8 月 7 日	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

今回の研究テーマは「断交時期の日中演劇交流」である。派遣機関である中国人民大学のそばにある中国最大の図書館「国家図書館」では、北京を代表する日刊紙『北京日報』のマイクログフィルムを閲覧し、1955年から1966年までの日本演劇人の訪中に関する記事を閲覧し調査を行った。

今回の派遣機関である中国人民大学文学院に所属する江棘教授とはこれまで18年に及ぶ交流があった。江棘教授は中国演劇学の中でも特に中国演劇の海外公演や外国人から見た中国演劇論を研究テーマとされている。今回の派遣期間中、江棘教授からは中国における演劇交流研究の動向や関連資料につき、様々な情報を提供いただき、併せて今後の中国人民大学文学院と本学との研究交流の可能性につき意見を交換した。

北京外国語大学日本語学院の秦剛教授は近現代の日本文学を専攻されており、日中文化交流に関する論考も複数発表されている。これまで秦教授とは1回の面識にとどまっていたが、今回の派遣期間中に北京外国語大学を訪問して日本研究の立場から見た日中演劇交流とその研究動向について意見を伺う機会を得た。秦教授とは2026年9月19日に横浜で開催されるシンポジウム「日中文化交流と上海」にも、ともに参加することになっており、同時にシンポジウムに関する事前打合せも行った。さらに今後の本学と北京外国語大学との学術交流の可能性について話し合うことができた。

中華人民共和国の国歌の作詞者であり、1920年代から1960年代を通じて中国演劇界を牽引した劇作家田漢(1898-1968)は日本に留学経験があり、谷崎潤一郎や佐藤春夫ら日本の文化人との交流はよく知られている。今回のテーマである断交時期の日中演劇交流においても、千田是也ら多くの訪中した演劇人に対する中国側のホストとして重要な役割を果たしていた。この田漢の功績を顕彰するために設立されたのが田漢基金会であり、同会で秘書長を務める欧陽維氏は田漢の外孫にあたる。今回の派遣期間中、欧陽維氏と面識を得ることができ、今後の学術交流の在り方などにつき意見を交わすことができた。併せて同氏が主催する「グローバルな視点から見た中国近現代舞台芸術(全球視野下的中國現當代表演藝術)」研究会のワークショップに参加することができた。